

平成 29 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

乳幼児健康診査のための「保健指導マニュアル（仮称）」
及び「身体診察マニュアル（仮称）」作成に関する調査研究

研究報告書

研究代表者

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター

小枝 達也

平成 30（2018）年 3 月

目次

研究の概要	1
研究内容の報告	
1. 「保健指導マニュアル（仮称）」作成事業	
研究課題 1-1	5
乳幼児健診における標準的な問診項目への回答者の状況と背景因子に関する調査	
研究課題 1-2	25
乳幼児健診における現場担当者の保健指導スキルに関する調査と研修プログラム案の 試行	
2. 「身体診察マニュアル（仮称）」作成事業	
研究課題2-1-1	49
乳幼児健診における医師の診察項目、精度管理、医師研修に関する実態調査	
研究課題2-1-2	63
乳幼児健診における医師の診察等の実施項目に関する検討	
研究課題 2-2	81
乳幼児健診における標準的な医師の診察に関する検討	
3. 乳幼児健康診査事業 実践ガイド	87
4. 乳幼児健康診査 身体診察マニュアル	235

研究概要

I. 研究の背景

我が国では母子保健法によって乳幼児健康診査が実施されていて、1歳6か月児健康診査および3歳児健康診査のほかに乳児期に行われる3、4か月児健康診査や9、10か月児健康診査の実施率も高く、また近年では発達障害の幼児に焦点を当てた5歳児健康診査を実施する自治体も増えてきている。

このように乳幼児健康診査は我が国の母子保健事業の中心的な柱の一つであるが、実施に当たっては、問診の内容や仕方、診察項目と診察法、判定基準、精度管理や担当者の研修の有無などに大きな地域差が存在するなど、さまざまな課題が指摘されている（乳幼児健康診査における保健指導と評価の標準的な考え方；平成27年度AMED【成育疾患克服等総合研究事業】乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究班）。

本研究ではこうした課題の中で標準的な保健指導と医師の診察手法に関するマニュアルを作成することを目的として、乳幼児健康診査の問診項目や保健指導スキルなどに関する調査を実施するとともに、現在わが国で実施されている乳幼児健康診査の自治体が作成しているマニュアルや出版されている乳幼児健康診査マニュアルを調査して、標準的なマニュアル作成の資料として活用した。身体診察マニュアル作成に際しては、前述の資料を活用するとともに、日本小児医療保健協議会健康診査委員会に執筆や編集協力を依頼して、小児科医の視点に加えて整形外科医、眼科医、耳鼻科医、精神科医といった専門診療科の視点も取り入れて、包括的なマニュアルとなることを目指した。

II. 研究内容

本研究事業は、主として下記の5つの内容を含む。

研究課題 1-1

乳幼児健診における標準的な問診項目への回答者の状況と背景因子に関する調査

平成27年度から「健やか親子21（第2次）」の指標の一部（15項目）が、乳幼児健診の標準的な問診項目として把握されている。これらの問診項目としての活用状況、特に導入時に現場から多様な意見が出た質問項目の回答者の状況や背景因子について、抽出地域での乳幼児健診受診者への質問紙や、事業担当者への聞き取り調査で把握し、標準的な問診項目の意義を検討する。

研究課題 1-2

乳幼児健診における現場担当者の保健指導スキルに関する調査と研修プログラム案の試行

先行研究により明らかとなった乳幼児健診の保健指導に求められる顕在的および潜在的な健康課題の抽出および継続的支援の技術を具体化するため、現場経験の豊富な保健師等が用いているスキルや手法を、聞き取り調査等により把握する。あわせて、乳幼児健

診に従事する非常勤職員（保健師等）の教育背景や経験等の特徴や研修受講の実態等を把握するとともに、保健指導に関する研修等に対するニーズ把握を行う。さらに、先行研究や現場のニーズ、および上記調査の結果をもとに、現場従事者の保健指導スキルを標準化するための研修プログラム案を作成・試行する。

研究課題 2-1

乳幼児健診における医師の診察項目、精度管理、医師研修に関する実態調査

先行研究により特定地域における医師の診察項目や精度管理の状況が把握されているが、全国規模での調査はこれまで認められない。標準的な医師診察項目を検討するため、サンプリングにより 200 の市町村の乳幼児健診事業で実施している医師の診察項目、および乳幼児の疾病のスクリーニングとしての問診項目等を収集し、分析する。あわせて、疾病スクリーニングについて市町村が集計している項目とその活用方法に関する情報を収集する。また、乳幼児健診を担当する医師に対する技術研修の実態についても調査する。

研究課題 2-2

乳幼児健診における標準的な医師の診察に関する検討

日本小児医療保健協議会（四者協）健康診査委員会が主催する乳幼児健診講習会での講演内容を元に、医師診察における手技や診察の留意点などの情報を収集する。また、先行研究や本調査結果を踏まえ、乳幼児健診における医師の標準的な診察項目や精度管理について検討し、「身体診察マニュアル（仮称）」にまとめる。

Ⅲ. 成果物

乳幼児健康診査事業 実践ガイド 全 134 頁 カラー印刷用 CD および研修用スライド・動画付き

乳幼児健康診査 身体診察マニュアル 全 104 頁 カラー印刷用 CD 付

IV. 事業担当者・研究協力者

事業担当者

小枝達也 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター こころの診療部
山崎嘉久 あいち小児保健医療総合センター
田中恭子 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 児童思春期リエゾン診療科

研究協力者

原田直樹 福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系
松浦賢長 福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系
草野恵美子 大阪医科大学看護学部公衆衛生看護学領域
佐藤睦子 大阪府立大学大学院看護学研究科博士後期課程
樺山 舞 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

乳幼児健康診査事業 実践ガイド 執筆者

山崎 嘉久	あいち小児保健医療総合センター
山縣 然太朗	山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座
佐藤 拓代	大阪府立病院機構大阪母子医療センター
秋山 千枝子	あきやま子どもクリニック
小倉 加恵子	森之宮病院神経リハビリテーション研究部
佐々木 溪円	横浜創英大学こども教育学部幼児教育学科
朝田 芳信	鶴見大学歯学部小児歯科学講座
船山 ひろみ	鶴見大学歯学部小児歯科学講座
田村 光平	東京都多摩小平保健所
高澤 みどり	千葉県市原市保健センター
松浦 賢長	福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系
原田 直樹	福岡県立大学看護学部ヘルスプロモーション看護学系
草野 恵美子	大阪医科大学看護学部公衆衛生看護学領域
佐藤 睦子	大阪府立大学大学院看護学研究科博士後期課程
樺山 舞	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
市川 香織	文京学院大学保健医療技術学部看護学科
黒田 美保	広島修道大学健康科学部
石川 みどり	国立保健医療科学院生涯健康研究部
衛藤 久美	女子栄養大学栄養学部国際協力学研究室
祓川 摩有	聖徳大学児童学部児童学科
高橋 希	千葉県健康福祉部健康づくり支援課
前野 佐都美	あいち小児保健医療総合センター保健センター

乳幼児健康診査 身体診察マニュアル 執筆者

秋山千枝子	あきやま子どもクリニック
朝貝芳美	信濃医療福祉センター整形外科
河野由美	自治医科大学小児科
小枝達也	国立成育医療研究センターこころの診療部
阪下和美	国立成育医療研究センター総合診療部
立花良之	国立成育医療研究センターこころの診療部
田中恭子	国立成育医療研究センターこころの診療部
成田雅美	国立成育医療研究センターアレルギー科
仁科幸子	国立成育医療研究センター眼科
平澤恭子	東京女子医科大学小児科
前川貴伸	国立成育医療研究センター総合診療部
益田 慎	県立広島病院小児感覚器科
編集協力	日本小児医療保健協議会健康診査委員会

乳幼児健診における標準的な問診項目への 回答者の状況と背景因子に関する調査

原田直樹

福岡県立大学看護学部

松浦賢長

福岡県立大学看護学部

山崎嘉久

あいち小児保健医療総合センター 保健センター

要旨

各市町村で実施される1歳6カ月健診時に親子関係と社会とのつながりに関する調査をおこなった。その中で、乳幼児健診における標準的な問診項目のうちの一つである「虐待をしていると思われる」親の行為をとりあげ、これらの状況と属性との関連性をみることにした。

社会とのつながり等については、「地域の活動に積極的に関わっている」という者は49.9%、「困ったときに、よく近所の人と助け合っている」という者は55.8%と、約半数の家族が地域・近所と積極的な関わりを有していることがうかがえた。一方で、「他の人との交流が少ない」者は26.9%、「地元には属しているという感覚はない」という者は35.6%であり、約4分の1を超える者が地域との関わりが希薄になっている現状が明らかになり、これらから二極化とも言える状況がうかがえた。

虐待をしていると思われる親の行為であるが、「いずれも該当しない」が66.4%であった一方で「感情的な言葉で怒鳴った(19.0%)」「感情的に叩いた(6.0%)」の行為は5%を超えていた。これらから、「怒鳴る・叩く」は、現実的に生じている望ましくはない2大行為と言えた。

自身の幼少期(小学校入学前)の家族との関係については、「親によく怒鳴られた」者は25.9%、「親によくたたかれた」者は15.4%であった。これらの経験のない者は約7~8割であった。また、「親はしつけのために私をたたくことはなかった」に否定的な回答をしたもの(たたかれた可能性があると言える)は38.0%であった。育児における「たたく」行為は決して少なくはないことが明らかとなった。

属性と虐待をしていると思われる親の行為であるが、唯一有意な関連がみられたのは、母親の最終学歴と「乳幼児だけを残して外出した」であった。割合をみると、学歴中卒のものにこの割合が多いことがわかった。より詳細に検討するためには、子どもをもうけた時期(母親の年齢)等を加味した分析が必要といえた。

【はじめに】

平成 27 年度から「健やか親子 21(第 2 次)」の指標の一部(15 項目)が、乳幼児健診の標準的な問診項目として把握されている。

山崎ら(2015)は、この新たな問診項目に対する考え方として、「健やか親子 21(第 2 次)」における健康の社会的決定要因の考え方を挙げ、それを、個人と社会とのつながりや子どもの健康課題の格差の存在に目を向けた上で、社会に生きる子どもの健やかな育ちを支援しようという考え方であるし、このような考え方が乳幼児健診にも取り入れられることが求められており、従来の乳幼児健診の考え方に大きな変革が求められてきたとしている。その上で、従来の「個から個」に加え、これからは「個から社会へ」「社会から個へ」、そして「集団と社会」という見方で問診項目を捉える必要があり、これは地域ごとの比較や経年推移の検討の上に成り立つものである。そのためには、全国で共通の問診項目を共有することと、それを個と地域への還元につなげることが求められているとしている。

そこで、これらの問診項目としての活用状況、特に導入時に現場から多様な意見が出た質問項目の回答者の状況や背景因子について、抽出地域での乳幼児健診受診者への質問紙調査等で把握し、標準的な問診項目の意義を検討する基礎資料とするために調査を実施することとした。

【目的】

本調査では、各市町村で実施される 1 歳 6 カ月健診時に親子関係と社会とのつながりに関する調査をすることにより、虐待に関する背景因子との関連についての示唆を得

ることを目的とした。

【対象・方法】

1) 調査対象地区等

47 都道府県の各都道府県の市町村から無作為抽出した計 141 市町村に対して調査協力依頼をした。そのうち調査を承諾した 66 市町村を調査対象地区とした。

2) 調査対象者等

抽出した市町村で実施される 1 歳 6 カ月健診を受診する子どもの保護者を対象とした。事前に受診見込数を確認し、6,137 名を調査対象者とした。

3) 調査方法

各市町村で実施される 1 歳 6 カ月健診の会場において、保護者に調査票を配布し、待ち時間などを利用して記入してもらい、封筒に封入したものを回収する。調査期間終了後に回収した全ての封筒をレターパックにて返送してもらうこととした。

4) 調査時期

平成 29 年 11 月 10 日から平成 29 年 12 月 28 日とした。

5) 調査内容

地域からの孤立の状況、虐待に関連する項目、保護者の成育歴、経済状況、主観的健康度など、虐待に関する背景因子との関連について質問した。

地域からの孤立の状況を問う「社会とのつながり等について」、及び保護者の成育歴を問う「あなたの幼少期(小学校入学前)の家族との関係について」は「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件法(3 問のみ 7 件法)で質問した。

虐待に関連する項目を問う「この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか」

は、「しつけのし過ぎがあった」「感情的に叩いた」「乳幼児だけを残して外出した」「長時間食事を与えなかった」「感情的な言葉で怒鳴った」「子どもの口をふさいだ」「子どもを激しく揺さぶった」「いずれも該当しない」の8項目について複数回答で有無を質問した。

経済状況については、「大変ゆとりがある」から「大変苦しい」までの5件法、主観的健康度は「良好」から「よくない」までの5件法で質問をした。

さらに個人属性を問うフェイスシートでは、年齢、性別の他に保護者の最終学歴についても質問した。

詳細は本稿末の調査票を参考にされたい。

【結果】

1) 回収状況

配布 6,137 人中 2,286 人分を回収した。回収率は 37.2%であった。ただし、配布数は市町村からの健診受診見込数であり、実際の配布数とは乖離がある。

2) 回答者等の属性

(1) 回答者の年齢

回答者の年齢は最小値 18 歳、最大値 68 歳で、平均値は 32.8 歳、標準偏差は 5.268 であった。

(2) 健診受診児の性別

健診受診児の性別は、2,286 人中、男子が 1,084 人で 47.4%、女子が 1,112 人で 48.6%、無回答が 90 人で 3.9%であった。

(3) 健診受診児との続き柄

健診受診児との続き柄は、2,286 人中、母親が 2121 人で 92.8%、父親が 77 人で 3.4%、その他の保護者が 8 人で 0.3%、無回答が 80

人で 3.5%であった。

(4) 保護者の最終学歴

保護者の最終学歴は、まず母親について、2,286 人中、中卒が 98 人で 4.3%、高卒が 645 人で 28.2%、短大・高専・専門学校卒が 840 人で 36.7%、大卒が 569 人で 24.9%、大学院卒が 47 人で 2.1%、無回答が 87 人で 3.8%であった。

次いで父親は、2,286 人中、中卒が 119 人で 5.2%、高卒が 683 人で 29.9%、短大・高専・専門学校卒が 370 人で 16.2%、大卒が 764 人で 33.4%、大学院卒が 134 人で 5.9%、無回答が 216 人で 9.4%であった。

3) 社会とのつながり等について

社会とのつながり等についての質問は、地域からの孤立の状況を問う質問であり、全 8 問からなっている。

(1) 「私の近所の人達は、互いに信頼し合っている。」の質問については、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」の 3 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 523 人で 22.9%、「ややそう思う」が 1122 人で 49.1%、「あまりそう思わない」が 605 人で 26.5%、「無回答」が 36 人で 1.6%であった。

(2) 「私には、地元には属しているという感覚はない。」の質問については、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの 7 件から回答を得た。2286 人中、「とてもそう思う」が 213 人で 9.3%、「そう思う」が 240 人で 10.5%、「まあまあそう思う」が 362 人で 15.8%、「どちらとも言えない」が 610 人で 26.7%、「あまりそう思わない」が 270 人で 11.8%、「そう思わない」が 224 人で 9.8%、「全くそう思わない」が 310 人で 13.6%、

「無回答」が57人で2.5%であった。

(3) 「私は、地元の人と親しいと感じている。」の質問については、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの7件から回答を得た。2286人中、「とてもそう思う」が269人で11.8%、「そう思う」が372人で16.3%、「まあまあそう思う」が426人で18.6%、「どちらとも言えない」が554人で24.2%、「あまりそう思わない」が254人で11.1%、「そう思わない」が209人で9.1%、「全くそう思わない」が169人で7.4%、「無回答」が33人で1.4%であった。

(4) 「地元は、居心地が良い。」の質問については、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの7件から回答を得た。2286人中、「とてもそう思う」が603人で26.4%、「そう思う」が467人で20.4%、「まあまあそう思う」が444人で19.4%、「どちらとも言えない」が478人で20.9%、「あまりそう思わない」が154人で6.7%、「そう思わない」が74人で3.2%、「全くそう思わない」が43人で1.9%、「無回答」が23人で1.0%であった。

(5) 「私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっている。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が425人で18.6%、「ややそう思う」が784人で34.3%、「あまりそう思わない」が713人で31.2%、「そう思わない」が341人で14.9%、「無回答」が23人で1.0%であった。

(6) 「私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っている。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」

が386人で16.9%、「ややそう思う」が890人で38.9%、「あまりそう思わない」が703人で30.8%、「そう思わない」が295人で12.9%、「無回答」が12人で0.5%であった。

(7) 「私の家族は、友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりしている。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が658人で28.8%、「ややそう思う」が887人で38.8%、「あまりそう思わない」が538人で23.5%、「そう思わない」が185人で8.1%、

「無回答」が18人で0.8%であった。

(8) 「私の家族は、他の人との交流が少ない。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が134人で5.9%、「ややそう思う」が480人で21.0%、「あまりそう思わない」が1061人で46.4%、「そう思わない」が598人で26.2%、「無回答」が13人で0.6%であった。

4) この数か月の間に、家庭であったこと

この数か月の間に、家庭であったことは、家庭における養育態度に虐待行為がなかったかを問う質問であり、全8項目からなる複数回答形式の質問である。

2286人中、「1. しつけのし過ぎがあった」が74人で3.2%、「2. 感情的に叩いた」が138人で6.0%、「3. 乳幼児だけを残して外出した」が31人で1.4%、「4. 長時間食事を与えなかった」が1人で0.0%、「5. 感情的な言葉で怒鳴った」が434人で19.0%、「6. 子どもの口をふさいだ」が5人で0.2%、「7. 子どもを激しく揺さぶった」が2人で0.1%、「8. いずれも該当しない」が1518人

で 66.4%であった。

5) あなたの幼少期（小学校入学前）の家族との関係について

あなたの幼少期（小学校入学前）の家族との関係については、保護者の成育歴を問う質問であり、全 13 問からなっている。

(1) 「親によくたたかされた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 89 人で 3.9%、「ややそう思う」が 263 人で 11.5%、「あまりそう思わない」が 600 人で 26.2%、「そう思わない」が 1319 人で 57.7%、「無回答」が 15 人で 0.7%であった。

(2) 「親によく怒鳴られた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 177 人で 7.7%、「ややそう思う」が 415 人で 18.2%、「あまりそう思わない」が 865 人で 37.8%、「そう思わない」が 778 人で 34.0%、

「無回答」が 51 人で 2.2%であった。

(3) 「親によくひどい言葉で傷つけられた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 78 人で 3.4%、「ややそう思う」が 200 人で 8.7%、「あまりそう思わない」が 719 人で 31.5%、「そう思わない」が 1230 人で 53.8%、「無回答」が 59 人で 2.6%であった。

(4) 「親は、しつけのために私をたたくことはなかった。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 918 人で 40.2%、「ややそう思う」が 437 人で

19.1%、「あまりそう思わない」が 547 人で 23.9%、「そう思わない」が 322 人で 14.1%、「無回答」が 62 人で 2.7%であった。

(5) 「親は私の意思を大事にしてくれた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 1057 人で 46.2%、「ややそう思う」が 831 人で 36.4%、「あまりそう思わない」が 264 人で 11.5%、「そう思わない」が 67 人で 2.9%、「無回答」が 67 人で 2.9%であった。

(6) 「親は私のことを信じてくれた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 1260 人で 55.1%、「ややそう思う」が 739 人で 32.3%、「あまりそう思わない」が 189 人で 8.3%、「そう思わない」が 40 人で 1.7%、「無回答」が 58 人で 2.5%であった。

(7) 「困ったときは、親が助けてくれた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 1595 人で 69.8%、「ややそう思う」が 499 人で 21.8%、「あまりそう思わない」が 105 人で 4.6%、「そう思わない」が 32 人で 1.4%、「無回答」が 55 人で 2.4%であった。

(8) 「親は、私の気持ちをわかってくれなかった。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの 4 件から回答を得た。2286 人中、「そう思う」が 309 人で 13.5%、「ややそう思う」が 492 人で 21.5%、「あまりそう思わない」が 721 人で 31.5%、「そう思わない」が 711 人で 31.1%、「無回答」が 53 人で 2.3%であった。

(9) 「親から過剰に干渉されていた。」の質

間については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が131人で5.7%、「ややそう思う」が361人で15.8%、「あまりそう思わない」が883人で38.6%、「そう思わない」が847人で37.1%、「無回答」が64人で2.8%であった。

(10) 「私の親は、親としての責任をしっかりと果たしていた。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が1500人で65.6%、「ややそう思う」が572人で25.0%、「あまりそう思わない」が104人で4.5%、「そう思わない」が45人で2.0%、「無回答」が65人で2.8%であった。

(11) 「親が近くにいと緊張した。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が78人で3.4%、「ややそう思う」が276人で12.1%、「あまりそう思わない」が599人で26.2%、「そう思わない」が1274人で55.7%、「無回答」が59人で2.6%であった。

(12) 「会話の多い家族だった。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が1152人で50.4%、「ややそう思う」が685人で30.0%、「あまりそう思わない」が331人で14.5%、「そう思わない」が62人で2.7%、「無回答」が56人で2.4%であった。

(13) 「自分の気持ちを親に話せなかった。」の質問については、「そう思う」から「そう思わない」までの4件から回答を得た。2286人中、「そう思う」が160人で7.0%、「ややそう思う」が574人で25.1%、「あまりそう

思わない」が782人で34.2%、「そう思わない」が711人で31.1%、「無回答」が59人で2.6%であった。

6) あなたの暮らし向きや主観的な健康について

あなたの暮らし向きや主観的な健康については、保護者の経済状況と主観的健康度を問う質問である。

(1) 「現在の暮らしの経済状況を総合的にみて、どう感じていますか。」の質問については、「大変ゆとりがある」から「大変苦しい」までの5件から回答を得た。2286人中、「大変ゆとりがある」が90人で3.9%、「ややゆとりがある」が385人で16.8%、「普通」が1201人で52.5%、「やや苦しい」が456人で19.9%、「大変苦しい」が87人で3.8%、「無回答」が67人で2.9%であった。

(2) 「あなたの最近の心身の調子はいかがですか。」の質問については、「良好」から「よくない」までの5件から回答を得た。2286人中、「良好」が597人で26.1%、「やや良好」が843人で36.9%、「どちらともいえない」が602人で26.3%、「ややよくない」が150人で6.6%、「良くない」が26人で1.1%、「無回答」が68人で3.0%であった。

7) フェイスシートとこの数か月の間に家庭であったこととの関連

フェイスシートのうち、子どもの性別、保護者の続き柄のうち父親と母親、父親と母親の最終学歴を独立変数とし、この数か月の間に家庭であったことのうち「感情的にたたいた」と「感情的な言葉で怒鳴った」のそれぞれを従属変数としてクロス集計を実施した。なお、父親と母親の最終学歴につい

ては、この数か月の間に家庭であったことのうち「乳幼児だけを残して外出した」も従属変数としてクロス集計を実施した。

(1)「性別」と「感情的にたたいた」「感情的な言葉で怒鳴った」との関連

「感情的にたたいた」は、男子が 1084 人中 60 人で 5.5%、女子が 1112 人中 70 人で 5.9%であり、「感情的な言葉で怒鳴った」については、男子が 1084 人中 196 人で 18.1%、女子が 1112 人中 224 人で 20.1%であり、いずれも男子より女子の割合がやや高かったが、 χ^2 二乗検定の結果、統計的に有意な差はなかった。

(2)「続き柄」と「感情的にたたいた」「感情的な言葉で怒鳴った」との関連

「感情的にたたいた」は、母親が 2121 人中 129 人で 6.1%、父親が 77 人中 5 人で 6.5%であり、母親より父親の割合がやや高かった。また、「感情的な言葉で怒鳴った」については、母親が 2121 人中 412 人で 19.4%、父親が 77 人中 11 人で 14.3%であり、父親より母親の割合が高かった。しかし、いずれも統計的に有意な差はなかった。

(3)「父親と母親の最終学歴」と「感情的にたたいた」「感情的な言葉で怒鳴った」との関連

「感情的にたたいた」は、母親の最終学歴のうち、中卒が 98 人中 12 人で 12.2%、高卒が 645 人中 40 人で 6.2%、短大・高専・専門学校卒が 840 人中 50 人で 6.0%、大卒が 569 人中 28 人で 4.9%、大学院卒が 47 人中 3 人で 6.4%と、中卒の割合が高いことが目立った。また、父親の最終学歴のうち、中卒が 119 人中 9 人で 7.6%、高卒が 683 人中 40 人で 5.9%、短大・高専・専門学校卒が 370 人中 21 人で 5.7%、大卒が 764 人

中 50 人で 6.5%、大学院卒が 134 人中 8 人で 6.0%と、中卒の割合がやや高かったが、母親、父親ともに統計的に有意な差はなかった。

「感情的な言葉で怒鳴った」については、母親の最終学歴のうち、中卒が 98 人中 25 人で 25.5%、高卒が 645 人中 125 人で 19.4%、短大・高専・専門学校卒が 840 人中 158 人で 18.8%、大卒が 569 人中 105 人で 18.5%、大学院卒が 47 人中 10 人で 21.3%と、こちらも中卒の割合が高いことが目立った。また、父親の最終学歴のうち、中卒が 119 人中 27 人で 22.7%、高卒が 683 人中 120 人で 17.6%、短大・高専・専門学校卒が 370 人中 73 人で 19.7%、大卒が 764 人中 147 人で 19.2%、大学院卒が 134 人中 32 人で 23.9%と、こちらも中卒の割合がやや高かったが、母親、父親ともに統計的に有意な差はなかった。

しかしながら、「乳幼児だけを残して外出した」については、母親の最終学歴のうち、中卒が 98 人中 5 人で 5.1%、高卒が 645 人中 5 人で 0.8%、短大・高専・専門学校卒が 840 人中 8 人で 1.0%、大卒が 569 人中 10 人で 1.8%、大学院卒が 47 人中 0 人で 0.0%と、全体的に度数は少ないが、 χ^2 二乗検定の結果、中卒が有意に多いことが分かった。

【考察】

1) 社会とのつながり等について

「地域の活動に積極的に関わっている」という者は 49.9%、「困ったときに、よく近所の人と助け合っている」という者は 55.8%と、約半数の家族が地域・近所と積極的な関わりを有していることがうかがえた。一方で、「他の人との交流が少ない」者は 26.9%、

「地元に属しているという感覚はない」という者は 35.6%であり、約 4 分の 1 を超える者が地域との関わりが希薄になっている現状が明らかになった。二極化とも言える状況である。

2) この数か月の間に、家庭であったこと

適切とはいえない養育態度を問うた問 10 であるが、「いずれも該当しない」が 66.4%と最も多かった。一方で「感情的な言葉で怒鳴った (19.0%)」「感情的に叩いた (6.0%)」の行為は 5%を超えていた。これらから、「怒鳴る・叩く」は、現実的に生じている望ましくはない 2 大行為と言えた。

3) あなたの幼少期 (小学校入学前) の家族との関係について

「親によく怒鳴られた」者は 25.9%、「親によくたたかれた」者は 15.4%であった。これらの経験のない者は約 7~8 割であった。

また、「親はしつけのために私をたたくことはなかった」に否定的な回答をしたもの (たたかれた可能性があると言える) は 38.0%であった。育児における「たたく」行為は決して少なくはないことが明らかとなった。

4) 属性とこの数ヶ月の間に家庭であったこととの関連

今回のクロス集計において、唯一有意な関連がみられたのは、母親の最終学歴と「乳幼児だけを残して外出した」であった。割合をみると、学歴中卒のものにこの割合が多いことがわかった。より詳細に検討するためには、子どもをもうけた時期 (母親の年齢) 等を加味した分析が必要となる。

【文献】

山崎嘉久：標準的な乳幼児期の健康診査と

保健指導に関する手引き～「健やか親子 21 (第 2 次)」の達成に向けて～. 平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金 (成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業) 乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究班, 2015.

集計表

【社会とのつながり等について】

1. 私の近所の人達は、互いに信頼し合っている。

	度数	割合 (%)
そう思う	523	22.9
ややそう思う	1122	49.1
あまりそう思わない	605	26.5
無回答	36	1.6
合計	2286	100.0

2. 私には、地元には属しているという感覚はない。

	度数	割合 (%)
とてもそう思う	213	9.3
そう思う	240	10.5
まあまあそう思う	362	15.8
どちらとも言えない	610	26.7
あまりそう思わない	270	11.8
そう思わない	224	9.8
全くそう思わない	310	13.6
無回答	57	2.5
合計	2286	100.0

3. 私は、地元の人と親しいと感じている。

	度数	割合 (%)
とてもそう思う	269	11.8
そう思う	372	16.3
まあまあそう思う	426	18.6
どちらとも言えない	554	24.2
あまりそう思わない	254	11.1
そう思わない	209	9.1
全くそう思わない	169	7.4
無回答	33	1.4
合計	2286	100.0

4. 地元は、居心地が良い。

	度数	割合 (%)
とてもそう思う	603	26.4
そう思う	467	20.4
まあまあそう思う	444	19.4
どちらとも言えない	478	20.9
あまりそう思わない	154	6.7
そう思わない	74	3.2
全くそう思わない	43	1.9
無回答	23	1.0
合計	2286	100.0

5. 私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっている。

	度数	割合 (%)
そう思う	425	18.6
ややそう思う	784	34.3
あまりそう思わない	713	31.2
そう思わない	341	14.9
無回答	23	1.0
合計	2286	100.0

6. 私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っている。

	度数	割合 (%)
そう思う	386	16.9
ややそう思う	890	38.9
あまりそう思わない	703	30.8
そう思わない	295	12.9
無回答	12	0.5
合計	2286	100.0

7. 私の家族は、友達を家に呼んだり友達の家遊びに行ったりしている。

	度数	割合 (%)
そう思う	658	28.8
ややそう思う	887	38.8
あまりそう思わない	538	23.5
そう思わない	185	8.1
無回答	18	0.8
合計	2286	100.0

8. 私の家族は、他の人との交流が少ない。

	度数	割合 (%)
そう思う	134	5.9
ややそう思う	480	21.0
あまりそう思わない	1061	46.4
そう思わない	598	26.2
無回答	13	0.6
合計	2286	100.0

【この数か月の間に、家庭であったこと】

10. この数か月の間に、家庭であったこと(複数回答) n=2286

	度数	割合 (%)
1. しつけのし過ぎがあった	74	3.2
2. 感情的に叩いた	138	6.0
3. 乳幼児だけを残して外出した	31	1.4
4. 長時間食事を与えなかった	1	0.0
5. 感情的な言葉で怒鳴った	434	19.0
6. 子どもの口をふさいだ	5	0.2
7. 子どもを激しく揺さぶった	2	0.1
8. いずれも該当しない	1518	66.4

【あなたの幼少期(小学校入学前)の家族との関係について】

9. 親によくたたかれた。

	度数	割合 (%)
そう思う	89	3.9
ややそう思う	263	11.5
あまりそう思わない	600	26.2
そう思わない	1319	57.7
無回答	15	0.7
合計	2286	100.0

11. 親によく怒鳴られた。

	度数	割合 (%)
そう思う	177	7.7
ややそう思う	415	18.2
あまりそう思わない	865	37.8
そう思わない	778	34.0
無回答	51	2.2
合計	2286	100.0

12. 親によくひどい言葉で傷つけられた。

	度数	割合 (%)
そう思う	78	3.4
ややそう思う	200	8.7
あまりそう思わない	719	31.5
そう思わない	1230	53.8
無回答	59	2.6
合計	2286	100.0

13. 親は、しつけのために私をたたくことはなかった。

	度数	割合 (%)
そう思う	918	40.2
ややそう思う	437	19.1
あまりそう思わない	547	23.9
そう思わない	322	14.1
無回答	62	2.7
合計	2286	100.0

14. 親は私の意思を大事にしてくれた。

	度数	割合 (%)
そう思う	1057	46.2
ややそう思う	831	36.4
あまりそう思わない	264	11.5
そう思わない	67	2.9
無回答	67	2.9
合計	2286	100.0

15. 親は私のことを信じてくれた。

	度数	割合 (%)
そう思う	1260	55.1
ややそう思う	739	32.3
あまりそう思わない	189	8.3
そう思わない	40	1.7
無回答	58	2.5
合計	2286	100.0

16. 困ったときは、親が助けてくれた。

	度数	割合 (%)
そう思う	1595	69.8
ややそう思う	499	21.8
あまりそう思わない	105	4.6
そう思わない	32	1.4
無回答	55	2.4
合計	2286	100.0

17. 親は、私の気持ちをわかってくれなかった。

	度数	割合 (%)
そう思う	309	13.5
ややそう思う	492	21.5
あまりそう思わない	721	31.5
そう思わない	711	31.1
無回答	53	2.3
合計	2286	100.0

18. 親から過剰に干渉されていた。

	度数	割合 (%)
そう思う	131	5.7
ややそう思う	361	15.8
あまりそう思わない	883	38.6
そう思わない	847	37.1
無回答	64	2.8
合計	2286	100.0

19. 私の親は、親としての責任をしっかりと果たしていた。

	度数	割合 (%)
そう思う	1500	65.6
ややそう思う	572	25.0
あまりそう思わない	104	4.5
そう思わない	45	2.0
無回答	65	2.8
合計	2286	100.0

20. 親が近くにいると緊張した。

	度数	割合 (%)
そう思う	78	3.4
ややそう思う	276	12.1
あまりそう思わない	599	26.2
そう思わない	1274	55.7
無回答	59	2.6
合計	2286	100.0

21. 会話の多い家族だった。

	度数	割合 (%)
そう思う	1152	50.4
ややそう思う	685	30.0
あまりそう思わない	331	14.5
そう思わない	62	2.7
無回答	56	2.4
合計	2286	100.0

22. 自分の気持ちを親に話せなかった。

	度数	割合 (%)
そう思う	160	7.0
ややそう思う	574	25.1
あまりそう思わない	782	34.2
そう思わない	711	31.1
無回答	59	2.6
合計	2286	100.0

【あなたの暮らし向きや主観的な健康について】

23. 現在の暮らしの経済状況を総合的にみて、どう感じていますか。

	度数	割合 (%)
大変ゆとりがある	90	3.9
ややゆとりがある	385	16.8
普通	1201	52.5
やや苦しい	456	19.9
大変苦しい	87	3.8
無回答	67	2.9
合計	2286	100.0

24. あなたの最近の心身の調子はいかがですか。

	度数	割合 (%)
良好	597	26.1
やや良好	843	36.9
どちらともいえない	602	26.3
ややよくない	150	6.6
良くない	26	1.1
無回答	68	3.0
合計	2286	100.0

【あなたとあなたのお子さん（この健診に来られている）について】

あなたの年齢

度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
2209	18	68	32.78	5.268

お子さんの性別

	度数	割合 (%)
男子	1084	47.4
女子	1112	48.6
無回答	90	3.9
合計	2286	100.0

あなたとお子さんの関係

	度数	割合 (%)
母親	2121	92.8
父親	77	3.4
その他の保護者	8	0.3
無回答	80	3.5
合計	2286	100.0

母親の最終学歴

	度数	割合 (%)
中卒	98	4.3
高卒	645	28.2
短大・高専・専門学校卒	840	36.7
大卒	569	24.9
大学院卒	47	2.1
無回答	87	3.8
合計	2286	100.0

父親の最終学歴

	度数	割合 (%)
中卒	119	5.2
高卒	683	29.9
短大・高専・専門学校卒	370	16.2
大卒	764	33.4
大学院卒	134	5.9
無回答	216	9.4
合計	2286	100.0

【フェイスシートとこの数か月の間に家庭であったこととの関連】

「性別」と「感情的にたたいた」とのクロス

	2. 感情的に叩いた				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
男子	1024	94.5%	60	5.5%	1084	100.0%
女子	1042	93.7%	70	6.3%	1112	100.0%
合計	2066	94.1%	130	5.9%	2196	100.0%

$$\chi^2=0.569 \quad P=0.451$$

「性別」と「感情的な言葉で怒鳴った」とのクロス

	5. 感情的な言葉で怒鳴った				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
男子	888	81.9%	196	18.1%	1084	100.0%
女子	888	79.9%	224	20.1%	1112	100.0%
合計	1776	80.9%	420	19.1%	2196	100.0%

$$\chi^2=1.51 \quad P=0.219$$

「続き柄」と「感情的にたたいた」とのクロス

	2. 感情的に叩いた				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
母親	1992	93.9%	129	6.1%	2121	100.0%
父親	72	93.5%	5	6.5%	77	100.0%
合計	2064	93.9%	134	6.1%	2198	100.0%

$$\chi^2=0.02 \quad P=0.882$$

「続き柄」と「感情的な言葉で怒鳴った」とのクロス

	5. 感情的な言葉で怒鳴った				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
母親	1709	80.6%	412	19.4%	2121	100.0%
父親	66	85.7%	11	14.3%	77	100.0%
合計	1775	80.8%	423	19.2%	2198	100.0%

$\chi^2=1.26$ P=0.261

「母親の最終学歴」と「感情的にたたいた」とのクロス

	2. 感情的に叩いた				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
中卒	86	87.8%	12	12.2%	98	100.0%
高卒	605	93.8%	40	6.2%	645	100.0%
短大・高専・専門学校卒	790	94.0%	50	6.0%	840	100.0%
大卒	541	95.1%	28	4.9%	569	100.0%
大学院卒	44	93.6%	3	6.4%	47	100.0%
合計	2066	94.0%	133	6.0%	2199	100.0%

$\chi^2=7.944$ P=0.094

「父親の最終学歴」と「感情的にたたいた」とのクロス

	2. 感情的に叩いた				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
中卒	110	92.4%	9	7.6%	119	100.0%
高卒	643	94.1%	40	5.9%	683	100.0%
短大・高専・専門学校卒	349	94.3%	21	5.7%	370	100.0%
大卒	714	93.5%	50	6.5%	764	100.0%
大学院卒	126	94.0%	8	6.0%	134	100.0%
合計	1942	93.8%	128	6.2%	2070	100.0%

$\chi^2=0.863$ P=0.930

「母親の最終学歴」と「感情的な言葉で怒鳴った」とのクロス

	5. 感情的な言葉で怒鳴った				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
中卒	73	74.5%	25	25.5%	98	100.0%
高卒	520	80.6%	125	19.4%	645	100.0%
短大・高専・専門学校卒	682	81.2%	158	18.8%	840	100.0%
大卒	464	81.5%	105	18.5%	569	100.0%
大学院卒	37	78.7%	10	21.3%	47	100.0%
合計	1776	80.8%	423	19.2%	2199	100.0%

$$\chi^2=2.94 \quad P=0.568$$

「父親の最終学歴」と「感情的な言葉で怒鳴った」とのクロス

	5. 感情的な言葉で怒鳴った				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
中卒	92	77.3%	27	22.7%	119	100.0%
高卒	563	82.4%	120	17.6%	683	100.0%
短大・高専・専門学校卒	297	80.3%	73	19.7%	370	100.0%
大卒	617	80.8%	147	19.2%	764	100.0%
大学院卒	102	76.1%	32	23.9%	134	100.0%
合計	1671	80.7%	399	19.3%	2070	100.0%

$$\chi^2=4.045 \quad P=0.400$$

「母親の最終学歴」と「乳幼児だけを残して外出した」とのクロス

	3. 乳幼児だけを残して外出した				合計	
	なし		あり		度数	割合 (%)
	度数	割合 (%)	度数	割合 (%)		
中卒	93	94.9%	5	5.1%	98	100.0%
高卒	640	99.2%	5	0.8%	645	100.0%
短大・高専・専門学校卒	832	99.0%	8	1.0%	840	100.0%
大卒	559	98.2%	10	1.8%	569	100.0%
大学院卒	47	100.0%	0	0.0%	47	100.0%
合計	2171	98.7%	28	1.3%	2199	100.0%

$$\chi^2=15.056 \quad P=0.005 / \text{Fisher's exact test}=0.021$$

親子関係と社会とのつながりに関するアンケート調査（1歳6ヶ月健診用）

1歳6ヶ月健診を受診の保護者の皆さまへアンケート調査ご協力をお願い

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
副院長・こころの診療部長 小枝 達也

時下、益々で清祥のことと存じます。

この度、弊センターでは平成 29 年度 厚生労働省子ども・子育て支援推進調査研究事業、乳幼児健康診査のための調査研究に取り組むこととなり、その一環として、「親子関係と社会のつながりにするアンケート調査」を実施することになりました。つきましては、調査へのご協力をお願い申し上げます。

アンケートは答えにくいところは空欄でかまいません。裏面にも質問がありますので、ご回答をお願いいたします。ご回答いただいた内容は市町村担当者が見ることはありません。無記名のアンケートで、統計的に処理いたしますので、個人が特定されることもありません。

お子様の健診の最中、大変恐縮ではございますが、上記ご了解の上、何卒ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、お子様の健やかな成長を祈念いたしております。

調査に関するお問い合わせ先

福岡県立大学看護学部 教授 松浦 賢長
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395
Tel. 0947-42-1905 Fax. 0947-46-3722
Eメール matsuura@fukuoka-pu.ac.jp

【社会とのつながり等についてお答えください。あてはまる番号1つに○をつけてください。】

(1) 私の近所の人達は、互いに信頼し合っている。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない

(2) 私には、地元属しているという感覚はない。

1. とてもそう思う --- 2 --- 3 --- 4 --- 5 --- 6 --- 7. 全くそう思わない

(3) 私は、地元の人と親しいと感じている。

1. とてもそう思う --- 2 --- 3 --- 4 --- 5 --- 6 --- 7. 全くそう思わない

(4) 地元は、居心地が良い。

1. とてもそう思う --- 2 --- 3 --- 4 --- 5 --- 6 --- 7. 全くそう思わない

(5) 私の家族は、地域の活動（祭り、防災訓練等）に積極的に関わっている。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(6) 私の家族は、困った時に、よく近所の人と助け合っている。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(7) 私の家族は、友達を家に呼んだり友達の家に遊びに行ったりしている。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(8) 私の家族は、他の人との交流が少ない。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

(9) 親によくたたかれた。

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

【この数か月の間に、ご家庭で以下のことがありましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。】

1. しつけのし過ぎがあった 2. 感情的に叫びた
3. 乳幼児だけを残して外出した 4. 長時間食事を与えなかった
5. 感情的な言葉で怒鳴った 6. 子どもの口をふさいだ（3歳児は除外）
7. 子どもを激しく揺さぶった 8. いずれも該当しない

裏面に続きます⇒

【あなたの幼少期（小学校入学前）の家族との関係についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。】

- (11) 親によく怒鳴られた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (12) 親によくひどい言葉で傷つけられた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (13) 親は、しつけのために私をたたくことはなかった。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (14) 親は私の意思を大事にしてくれた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (15) 親は私のことを信じてくれた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (16) 困ったときは、親が助けてくれた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (17) 親は、私の気持ちをわかってくれなかった。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (18) 親から過剰に干渉されていた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (19) 私の親は、親としての責任をしっかりと果たしていた。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (20) 親が近くにいと緊張した。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (21) 会話の多い家族だった。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない
- (22) 自分の気持ちを親に話せなかった。
1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

【あなたの暮らし向きや主観的な健康についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。】

- (23) 現在の暮らしの経済状況を総合的にみて、どう感じていますか。
1. 大変ゆとりがある 2. ややゆとりがある 3. 普通 4. やや苦しい 5. 大変苦しい
- (24) あなたの最近の心身の調子はいかがですか。
1. 良好 2. やや良好 3. どちらともいえない 4. ややよくない 5. よくない

【あなたとあなたのお子さん（この健診に来られている）について教えてください。】

あなたの年齢は.....（ ）歳

お子さんの年齢は.....（ ）歳

お子さんの性別は..... 1. 男子 2. 女子

あなたとお子さんとの関係は..... 1. 母親 2. 父親 3. その他の保護者

あなた（母）及び父の最終学歴を教えてください。

母・・・ 1. 中卒 2. 高卒 3. 短大・高専・専門学校卒 4. 大学卒 5. 大学院卒

父・・・ 1. 中卒 2. 高卒 3. 短大・高専・専門学校卒 4. 大学卒 5. 大学院卒

ご協力ありがとうございました。封筒に入れシールを閉じて、市町村の担当者にお渡しください。

研究課題 1-2

乳幼児健診における現場担当者の保健指導スキルに関する調査と 研修プログラム案の試行

小枝達也

国立研究開発法人国立成育医療研究センター こころの診療部

山崎嘉久

あいち小児保健医療総合センター 保健センター

草野恵美子

大阪医科大学看護学部

佐藤睦子

大阪府立大学大学院看護学研究科博士後期課程

樺山 舞

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

要旨

全国どの自治体で受診しても一定水準以上の支援が行き届くための乳幼児健診における保健指導スキルの標準化に向けて、2つの調査を実施するとともに、調査結果等から研修プログラム案を作成し試行した。調査1では非常勤保健師の研修実態やニーズを把握し、非常勤従事者も含めたスキルアップ研修プログラム案作成の際の資料とした。調査2では熟練保健師へのインタビュー調査を実施し、その結果を熟練保健師が駆使している技術として研修で紹介するとともに、ロールプレイ演習の際に活用した。

これまで詳細な実態が示されていなかった非常勤従事者の研修ニーズ等を把握でき、また、定型化が難しい保健指導技術の可視化を試みるとともに、乳幼児健診における保健指導のスキルアップ研修プログラム案の提示につなげることができたと考えられる。

はじめに

乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）における保健指導の目的は、親子の顕在的および潜在的な健康課題を明確化し、その健康課題の解決に向けて親子が主体的に取り組むことができるよう支援することである（標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き、2015）。保健師が行う保健指導の中でも乳幼児健診では特に、短時間のうちに、顕在的のみならず潜在的な健康課題

を明確にし、総合的判断をしてその後の継続的支援に結びつけるために、より高度な技術が必要とされるという特徴がある。

乳幼児健診は全ての親子と接することができる貴重な母子保健事業の1つであるが、昨今、健康課題が複雑多様化する中で信頼関係を構築し、必要な支援につなげることが難しくなっている。加えて新任期やパート雇用者が多く参加する事業であるが、たとえ新任期であろうともある一定水準以

上の保健指導を提供する必要がある、特に新任期・パート雇用者への研修が重要と考えられる。実践的および継続的な研修は不可欠ではあるが、研修実態や研修ニーズを明確にし、また、熟練の技を可視化することで、経験が少ない健診従事者の理解を促進し、効果的に研修を進めるための一助となると考えられる。

そこで、乳幼児健診における保健指導スキルの標準化に向けて、本研究課題では2つの調査を実施し、非常勤保健師の研修実態やニーズを把握するとともに、熟練保健師の保健指導技術の可視化を目指した。さらに、その調査結果や先行研究等を踏まえて現場担当者に協力を仰ぎながら研修プログラム案を作成して試行したので報告する。

本報告の構成は次の通りである。

- I. 調査1：乳幼児健康診査に従事する非常勤保健師の実態および研修ニーズに関する調査
- II. 調査2：乳幼児健康診査での熟練保健師の保健指導技術に関する調査
- III. 研修プログラム案の作成と試行

I. 調査1：乳幼児健康診査に従事する非常勤保健師の実態および研修ニーズに関する調査

1. 目的

乳幼児健診には自治体によっては非常勤保健師も多く従事し、重要な役割を担っている。本乳幼児健康診査に従事する非常勤保健師の実態及び研修へのニーズを把握し、非常勤保健師も含めた研修プログラム案を検討するための基礎資料とすることを目的とした。

2. 対象および方法

2017年12月に乳幼児健診に従事する非常勤保健師を対象とした調査を実施した。本調査において非常勤保健師とは、「正職員以外の保健師」を指す。全国市区町村（政令指定都市は各区）の乳幼児健診担当保健師に、研修ニーズが高いと考えられる従事年数3年未満の非常勤保健師1名（3年未満の保健師がいない又は複数いる場合は最も従事年数が短い1名）への調査票配布を郵送にて依頼した。倫理的配慮として、調査票は無記名とし、文書による説明を行い、調査票の返送をもって同意とすることとした。また調査票の配布を依頼した乳幼児健診担当保健師には調査への協力の有無がわからないようにするために、調査票は返信用封筒で直接、調査実施者に返送することとした。全国市区町村（政令指定都市は各区）1,897自治体に発送し、そのうち非常勤保健師がいない等の理由で該当者なしとの連絡があった36自治体を除く1,861自治体のうち、575人から回答を得た（回収率30.9%）。

3. 結果

1) 回答者の背景

回答者の勤務地を図1に示す。また回答者が勤務している自治体の人口（区の場合は区の人口）は5万～20万人が35.5%と最も多かった（図2）。自治体の種類は保健所設置市以外の市が44.0%と最も多く、次いで町が28.5%であった（図3）。

回答者の平均年齢（±SD）は39.1（±11.7）歳であった。また保健師経験年数の平均（±SD）は10.1（±11.5）年であり、乳幼児経験年数の平均（±SD）は7.8（±9.3）年で

あった。回答者のその他の基本情報を表 1 に示す。保健師免許取得教育機関は 53.2% が大学であり、11.8% は助産師の免許も保有していた。また地区担当をしている者は 41.0% であり、乳幼児健診以外にも育児相談・育児教室 (67.5%) をはじめとする各種母子保健事業に従事する回答者や母子保健分野以外にも従事している回答者もいた。乳幼児健診に従事している頻度は週に 1 階が 22.1% で最も多く、乳幼児健診での担当内容は問診が 90.6% と最も多く、次いで個別の保健指導 77.4% であった。事務作業も 36.2% の回答者が担当していた。

2) 健診前のフォローケースの情報共有やカンファレンス、マニュアル配布状況
健診前のフォローケースの情報共有については、「紙で共有」が 62.4%、「カンファレンスで共有」が 55.7% であった (表 2)。一方、「事前共有なし」も 6.8% いた。

健診後のカンファレンスへは 91.7% が参加しており、カンファレンスへの参加により自分自身に役立つ点としては、「フォロー判断に関するスキルアップ」84.5% が最も多くなっていた (表 3)。

乳幼児健診に関するマニュアルは 63.5% の回答者の自治体で配布されていたが、13.6% が配布されておらず、15.3% がマニュアルがないと回答していた (表 4)。

3) 乳幼児健診従事への自信と従事する際の相談体制

乳幼児健診に従事するにあたってどの程度自信があるか尋ねたところ、「あまり自信がない」「かなり自信がない」を合わせると 54.5% が自信がないと答えていた (表 5)。

乳幼児健診に従事する際の相談体制は 82.8% があると答えていたが、11.1% は特にないと回答していた。

4) 乳幼児健診に従事する中で感じる困難

乳幼児健診に従事する中で感じる困難について図 4 に示す。「かなり困難を感じる」「少し困難を感じる」を合わせて困難を感じている割合が 50% 以上であった項目は、「3) 問診での潜在的な健康課題やニーズの把握」(68.9%)、「5) 個別の保健指導」(58.9%)、「7) 対象者との信頼関係づくり」(50.9%)、「8) 拒否的傾向にある対象者への対応」(85.3%)、「10) 精神的発達 (心理発達) に関するアセスメント」(77.6%)、「11) フォローアップの必要性に関する判断」(69.3%)、「13) 地域の社会資源に関する情報提供」(52.5%)、「15) 苦情への対応」(70.0%) であった。

5) 乳幼児健診に従事する中で感じるやりがい

乳幼児健診に従事する中で感じるやりがいについて、図 5 に示す。「1) 元気な子どもと接した時」や「2) 保護者等の満足感が感じられた時」、「3) 保護者等の不安の解消に役立ったと感じる時」、「4) 保護者等の笑顔がみられた時」などが多くなっていた。

6) 研修受講状況

乳幼児健診に関する研修の受講状況について表 6、7 に示す。受講経験がない回答者は 49.0% であった。また、受講経験がある者のうち、受講頻度は「1 年に 1 回以上」が 62.6% と最も多く、受講した研修の主催団体は「都道府県」が 53.6% と最も多かった。

7) 研修ニーズ (図 6)

受講してみたい研修内容については、「とても受けたい」の割合が最も多かったものは精神(心理)発達に関すること(75.5%)であった。次いで身体面の発育発達に関すること(59.5%)、個別保健指導(50.3%)となっていた。

8) 乳幼児健診と「健やか親子21(第2次)」 (表 8)

「健やか親子21(第2次)」を勉強する機会については、「あまりない」45.0%「ほとんどない」29.9%となっており、また、「健やか親子21(第2次)」における乳幼児健診の位置づけについて考える機会も「あまりない」47.5%「ほとんどない」27.8%となっており、約7割の回答者が「健やか親子21(第2次)」や乳幼児健診との関連について考える機会をあまりもっていなかった。

4. 考察

非常勤保健師に関する先行研究については、専門職務遂行能力に関する研究(佐伯ら、2014: 会議録)はあるものの、乳幼児健診に特化した研究はほとんど見当たらない。今回、従事年数が少ない保健師を対象としたことや回収率が約3割であったこと等から、全ての非常勤保健師の実態を明らかにするには限界があったが、非常勤保健師の実態やニーズについてある程度把握できたと考えられる。

今回の回答者は、平均すると比較的経験年数も長く、乳幼児健診以外にも各種母子保健事業にも従事している者もあり、場合によっては新任期より様々な経験をしてい

ることがうかがえた。そのような経験を積んでいるものの、乳幼児健診従事への自信については、54.5%が「あまり自信がない」「かなり自信がない」と答えており、11.1%が相談体制がないとしていた。また49.0%が研修受講経験がないと答えていた。さらに詳細な把握が必要ではあり、自治体の状況は多様で一概には言えないが、非常勤保健師の場合、短期間雇用の場合もあるため、長期的および系統的な研修や指導体制を組むことが難しく、様々な経験を統合してスキルアップにつなげる機会を得ることが難しい状況が考えられた。

乳幼児健診に従事する中で感じる困難感が高かった項目の1つに「個別の保健指導」があり、これは研修ニーズが高い項目でもあった。また、約9割が問診に従事していたが、「問診での潜在的な健康課題やニーズの把握」について約7割が困難を感じていた。さらに「対象者との信頼関係づくり」や「拒否的傾向にある対象者への対応」、「精神的発達に関するアセスメント」、「フォローアップの必要性の判断」に困難を感じる者も多く、問診や結果説明を含めた個別性の高い保健指導スキル向上のニーズが高いことが考えられた。

また、「地域の社会資源に関する情報提供」に困難を感じる者も多く、地区担当をしない非常勤保健師も多くいることから、なんらかの工夫が必要であることが考えられた。

乳幼児健診は連続性のある母子保健指導の一時点であり、連動性のある母子保健事業の一事業である。その母子保健の目指すところの1つに「健やか親子21(第2次)」があり、乳幼児健診はその達成を目指すた

めにも重要な事業である。しかしながら「健やか親子21（第2次）」についての学習機会や乳幼児健診の位置づけを考える機会がない者が多く、研修プログラムを検討する際にはその点の考慮も必要と考えられた。

今後の課題として、保健指導スキルの標準化を目指すにあたっては地域特性を加味

することは重要であり、今回、全ての市区町村を対象とし、全国各地から協力が得られたため、地域別の分析等も必要であると考えられる。その他、回答者の背景からみた困難感や研修ニーズの分析など、さらに詳細な分析が必要と考えられた。

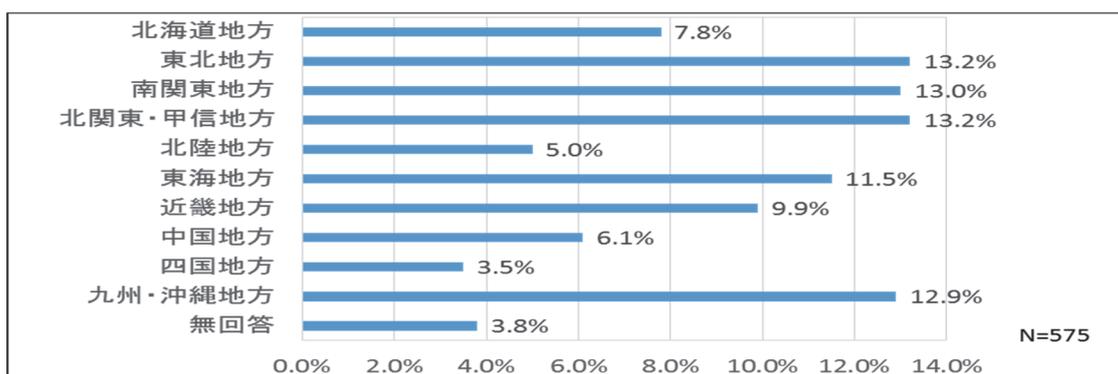


図1 回答者の勤務地

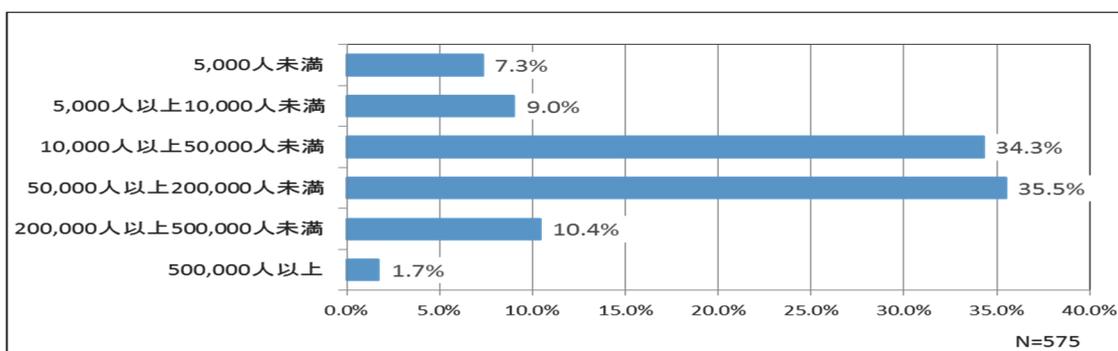


図2 回答者が勤務している自治体の人口

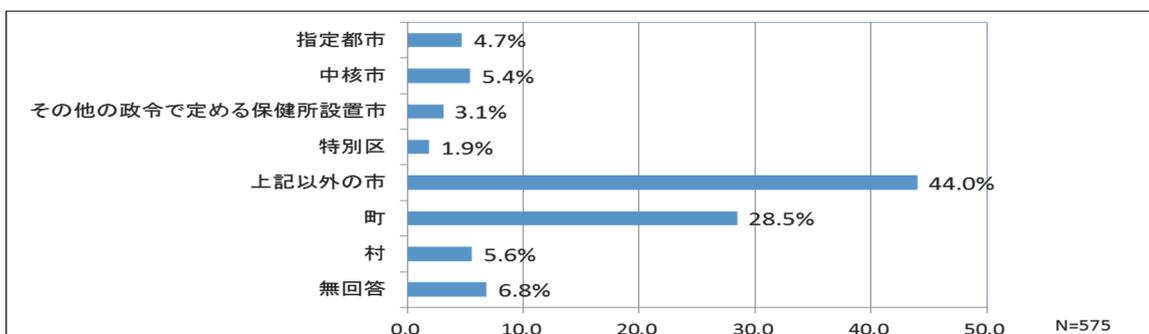


図3 回答者が勤務している自治体の種類

表1 回答者の基本的情報

		人(%)、N=575
性別	男	6(1.0)
	女	565(98.3)
	無回答	4(0.7)
保健師免許取得教育機関	大学院	2(0.3)
	大学	306(53.2)
	短大専攻科	57(9.9)
	専門学校	199(34.6)
	その他	3(0.5)
	無回答	8(1.4)
助産師の免許取得の有無	助産師の免許を取得している	68(11.8)
地区担当の有無	担当地区をもっている	236(41.0)
乳幼児健診以外に従事している母子保健事業 (複数回答)	育児相談・育児教室	388(67.5)
	妊婦教室等	172(29.9)
	離乳食教室	136(23.7)
	母乳相談	123(21.4)
	二次健診	109(19.0)
	電話相談	326(56.7)
	家庭訪問	406(70.6)
	その他	131(22.8)
	従事していない	53(9.2)
	母子保健事業以外に従事している保健分野 (複数回答)	成人保健分野
高齢者保健・福祉分野(介護予防)含む		134(23.3)
難病分野		37(6.4)
精神保健分野		97(16.9)
障害者福祉分野(精神以外)		35(6.1)
その他		71(12.3)
母子保健事業以外は従事していない		170(29.6)
乳幼児健診に従事している頻度 (他の市区町村での従事も含む)	1ヶ月に1回以下	112(19.5)
	1ヶ月に2回	114(19.8)
	1ヶ月に3回	121(21.0)
	週に1回	127(22.1)
	週に2回以上	88(15.3)
	無回答	13(2.3)
乳幼児健診での担当内容 (複数回答)	問診	521(90.6)
	集団での健康教育	84(14.6)
	計測	194(33.7)
	診察介助	148(25.7)
	結果説明	323(56.2)
	個別の保健指導	445(77.4)
	事務作業	208(36.2)
	受付	124(21.6)
その他	43(7.5)	

表2 健診前のフォローケースの共有(複数回答)

	人(%)、N=575
カンファレンスで共有	320(55.7)
紙で共有	359(62.4)
事前共有なし	39(6.8)
その他	31(5.4)
無回答	9(1.6)

表3 健診後のカンファレンスに関すること

	人(%)、N=575	
健診後のカンファレンスへの参加	参加している	527(91.7)
	参加していない(フォローケース申し送りは個別)	27(4.7)
	参加していない(フォローケース申し送りない)	5(0.9)
	カンファレンスがない	6(1.0)
	その他	3(0.5)
	無回答	7(1.2)
健診後のカンファレンスに参加することで 自分自身に役立つ点 (複数回答)	フォロー判断に関するスキルアップ	486(84.5)
	発育発達のアセスメントに関するスキルアップ	462(80.3)
	地域の療育機関や子育て支援機関に関する情報収集	335(58.3)
	多職種の視点が参考になる	422(73.4)
	その他	20(3.5)
	特になし	5(0.9)

表4 勤務している自治体における乳幼児健診に関するマニュアル配布の有無

	人(%)、N=575
配布あり	365(63.5)
配布なし	78(13.6)
マニュアルなし	88(15.3)
その他	29(5.0)
無回答	15(2.6)

表5 乳幼児健診従事への自信、従事する際の相談体制

	人(%)、N=575	
乳幼児健診従事への自信	とても自信がある	4(0.7)
	ある程度自信がある	247(43.0)
	あまり自信がない	289(50.3)
	かなり自信がない	24(4.2)
	無回答	11(1.9)
乳幼児健診に従事する際の相談体制の有無	あり	476(82.8)
	特になし	64(11.1)
	その他	27(4.7)
	無回答	8(1.4)

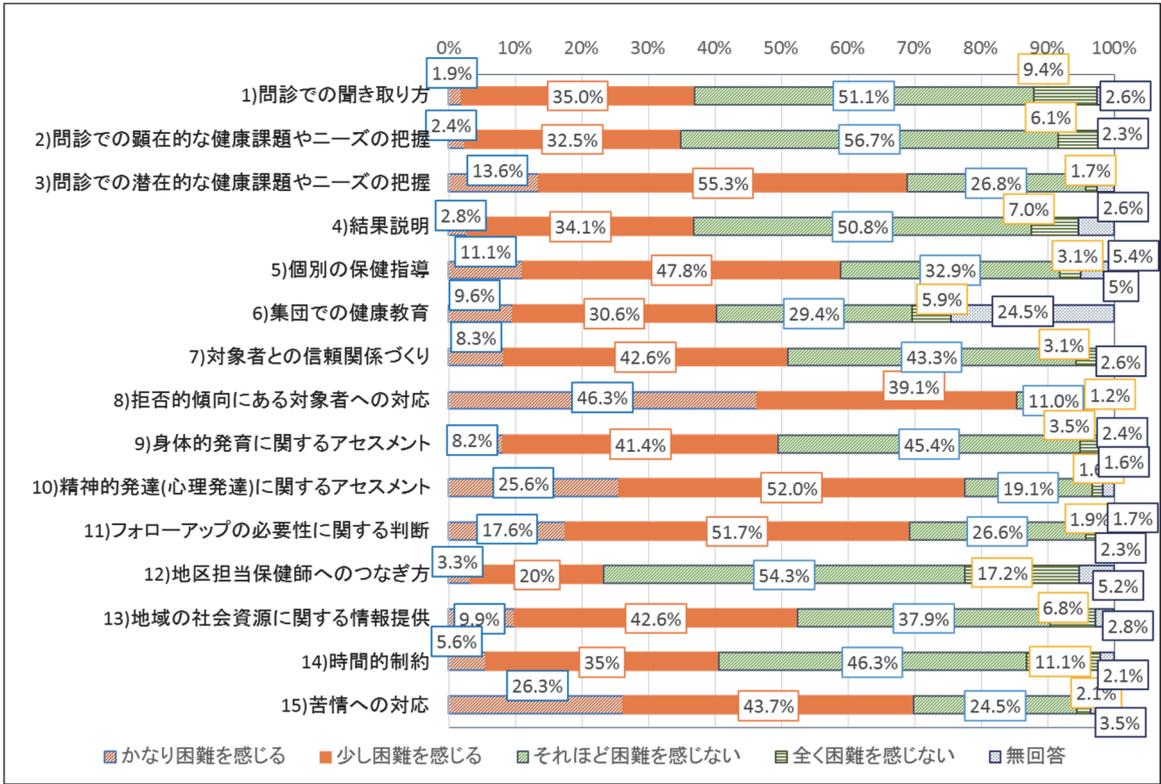


図4 乳幼児健診に従事する中で感じる困難の程度

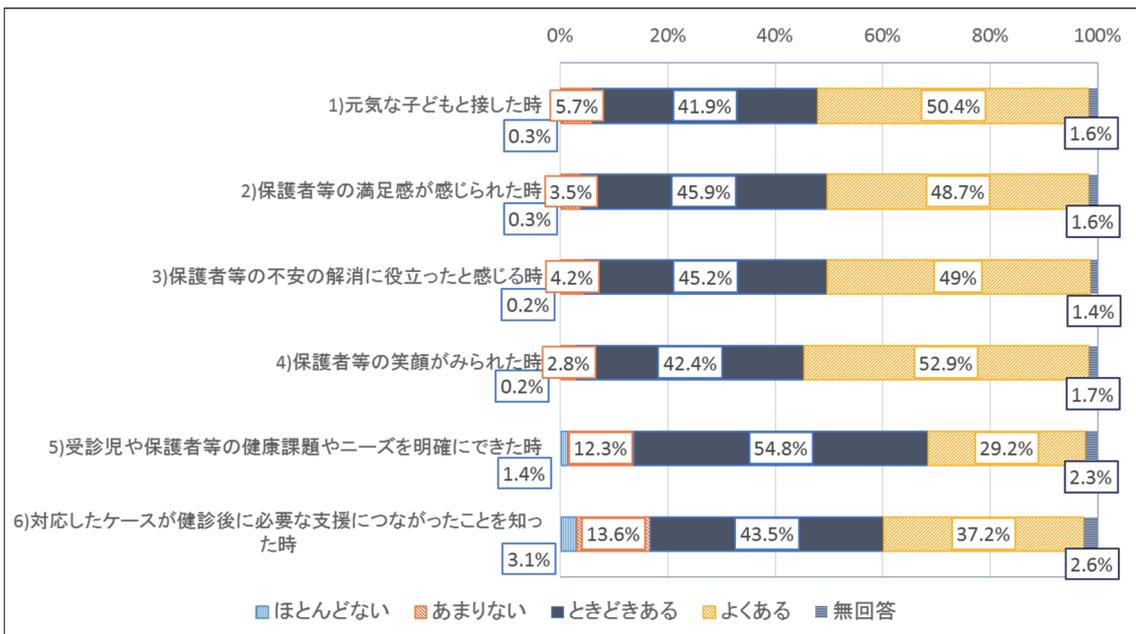


図5 乳幼児健診に従事する中で感じるやりがい

表6 乳幼児健診に関する研修の受講経験の有無

	人(%)、N=575
受講経験がある	289(50.3)
受講経験がない	282(49.0)
無回答	4(0.7)

表7 乳幼児健診に関して受講した研修について(受講経験ありの場合のみ回答)

	人(%)、N=289	
受講頻度	1年に1回以上	180(62.3)
	2~3年に1回程度	59(20.4)
	2~3年に1回未満	49(17.0)
	無回答	1(0.3)
受講した研修の主催団体 (複数回答)	勤務先	118(40.8)
	都道府県	155(53.6)
	看護協会	25(8.7)
	日本家族計画協会	27(9.3)
	小児保健協会	26(9.0)
	学術団体	23(8.0)
	その他	38(13.1)
受講した研修の情報入手方法 (複数回答)	勤務先	272(94.1)
	自分で	26(9.0)
	その他	7(2.4)

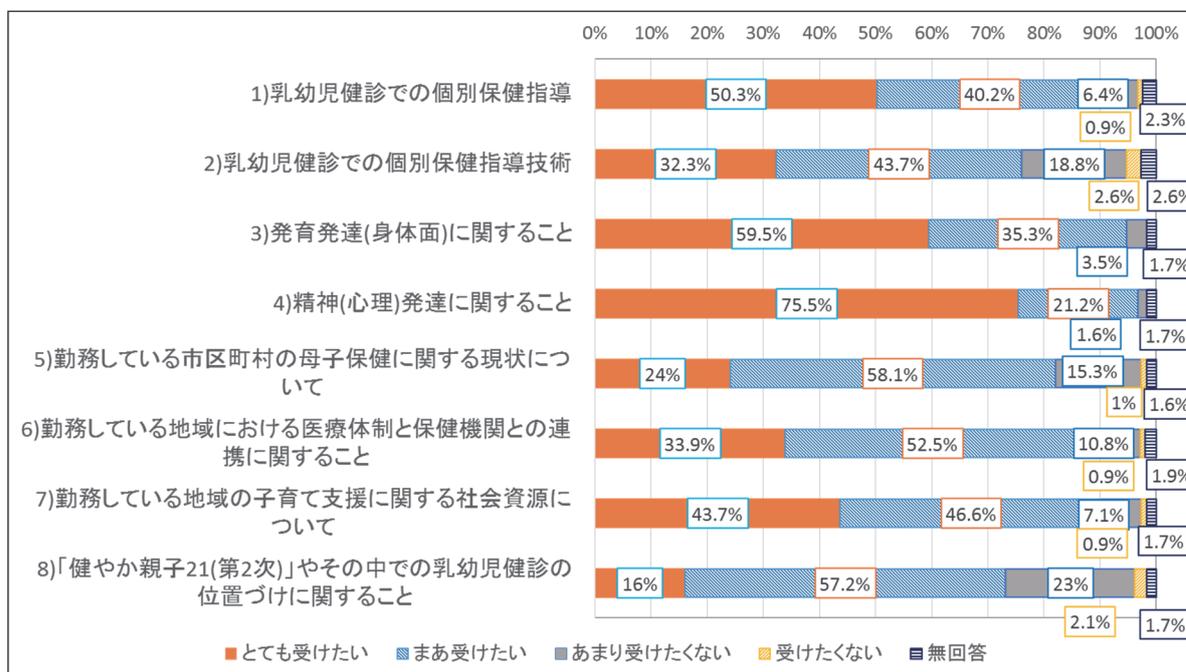


図6 乳幼児健診に関する研修ニーズ

表8 乳幼児健診と「健やか親子21(第2次)」について

		人(%)、N=575
「健やか親子21(第2次)」を勉強する機会	よくある	7(1.2)
	ときどきある	129(22.4)
	あまりない	259(45.0)
	ほとんどない	172(29.9)
	無回答	8(1.4)
「健やか親子21(第2次)」における乳幼児健診の位置づけについて考える機会	よくある	9(1.6)
	ときどきある	126(21.9)
	あまりない	273(47.5)
	ほとんどない	160(27.8)
	無回答	7(1.2)

II. 調査2：乳幼児健康診査での熟練保健師の保健指導技術に関する調査

1. 目的

熟練の保健師が用いている技術を収集することにより、顕在的および潜在的な健康課題の抽出および継続的支援に必要とされる保健指導技術を収集し、新任期や非常勤保健師の研修等に活かせる基礎資料を得ることを目的とした。

2. 対象および方法

対象を保健師経験 25 年以上または母子保健分野の業務への従事経験 10 年以上の市区町村保健師とし、便宜的サンプリングとスノーボールサンプリングの併用により 4 自治体の保健師を抽出した。候補となった保健師が所属する所属長に研究協力を依頼し承諾を得た後に、研究者と候補者が直接連絡をとって文書および口頭にて説明をし、承諾が得られた場合、インタビュー日等を調整した。インタビュー日にはさらに直接、口頭および文書にて研究の趣旨を説明し、同意書による最終的な同意を得た。インタビューは 1 時間半程度とし、インタビュー実施場所は研究参加者が希望する場所で

プライバシーができる個室を確保して実施した。倫理的配慮として、上記の手続きを踏むとともに、インタビュー後も協力撤回ができることなどを合わせて説明した。

インタビューの主な内容は、保健師経験年数、母子保健分野での経験年数、勤務先の種類(区・指定都市・中核市・それ以外の市・町・村)、乳幼児健診における保健指導に必要と思われる技術(短時間での信頼関係構築、顕在的および潜在的な健康課題の抽出、継続的支援、アセスメント技術、新任期の保健師へ教授している技術)であった。同意が得た上でインタビュー内容を録音して逐語録を作成し、内容毎に整理した。

3. 結果

協力が得られた保健師 4 名であり、所属自治体の種類は政令指定都市・特別区 2 名、市 2 名、保健師経験年数は 14 年～35 年、母子保健従事年数は 11 年～35 年であった。

主な結果を表 9 に示す。なお、結果を整理する際には、将来的に、研修資料として使用できることを意識して行い、またイメージしやすいように具体例をインタビュー内容から抽出して添えることとした。

表 9 以外に記載した内容以外にも、ベテランの心構えとして、『来てよかったな』思える健診はどんな健診か、常に意識して考える」などが挙げられていた。また、乳幼児健診を通じた人材育成のコツ・後輩へのアドバイスとして、「カンファレンスの場を活かす」「対象者から学ばせてもらう姿勢が大事」「たくさんの親子に会うことに尽きる」などが挙げられた。

4. 考察

乳幼児健診の標準化に向けて、例えばマニュアル等で最低限クリアすべき内容を提示することは効果的な方策の1つとして挙げられる。ただし、対象者の背景や課題が複雑多様化する中で、特に個別の保健指導をマニュアル等で定型化することは難しい。基本的信頼関係の構築と、親子の困りごとに対して寄り添う姿勢、そして、多くの親子と真摯に向き合う経験を積み重ね、先輩の背中をみながら、保健指導で活用できるたくさんの“引き出し”を持つことが、乳幼児健診を受診する親子の満足感につながるのではないかと考えられる。今回の調査から一部ではあるがそのヒントを得ることができたのではないかと考えられる。

表9 乳幼児健診における保健指導技術 ～熟練保健師インテビューから探る“コツ”～

問診の前におさえるコツ	
問診票から対象者にメッセージを伝える糸口をさぐる	「問診票からびびりと引く張らないといけなかなと思うんですよ。兄弟関係、何人いるとか、上の子は何歳で下の子は何歳でって、この子はどの順位か…そこから話題になってきていていので、話ができませんよね。なので、やっぱり基本情報を健診の前にさっと見る。そのお母さんにメッセージを伝える糸口にする。」
待合いのところで、まずはアセスメントする	「名前呼ぶ前にまず、どんなふうに通じてるか、母子関係、名前を呼んで、名前を呼んだのに反応するか、名前を呼んだときにこっちを振り返るか…指示に心して立ち上がってついてこれるか、歩き方とかうみたいな形で、発達の評価の部分だったら大概そこでわかる」
持っている荷物からもアセスメントする	「おむつとか、最低限持っておかないといけないものがあるじゃないですか。でも、それを持たずに来てたら、気になりますよね。荷物の量も、持ち過ぎのお母さんがいたら、不安なんだろうなって思う…」
健診時の信頼関係構築のコツ	
「来てくださってありがとうございます」の気持ち	「健診は評価される場所だと思ってお母さん来るお母さんもおられるので、私たち、評価者じゃないよというメッセージ伝えないといけない…決まりきってるかもしないけど、『ほんとうによいお出でください』暑いのにね、大変でしたよね』というふうな、『よくお出でください』というエルカムメッセージが大事。あとは、それこそね、笑顔なんですよけれどね。やっぱりその辺が自然と出るように。」「来てくれて当然じゃない、みんな時間をつとめて来てくれるので、来てよかったですと思える健診になるような態度を示す」
まずは挨拶から・必ず自己紹介してから始める	「やっぱりファーストコンタクトとか、第一声目のときに、『こんにちは』『お待ちしました』という言葉かけを入れる」 「子どもの目線に立って挨拶をする」 「『私は保健師の何々です』といってから、『お名前教えてください』とき」
基本的なことに気を付ける	「名前と性別を間違えない」「上から目線にならない」 「きちんとやわらかい笑顔がつけられる」 「『保健師さん、感じいいかも』と思ってもらえるように」
ともに成長を喜び合う・子どもを褒める	「『大きくなったね』とか、『かわいくなったね』といったところから共有する」
ここから情報が漏れることはない伝える	「健診の場からは漏れないことを伝えてあるので、『お母さん、誰にも言えないような悩みとか、あるよね』とか、『ここからだたら漏れることはないから、友達とかに話していくことか話していいんだよ』といったことが伝わるようにする」
きちんと同意を得る	「お母さんに、『2歳になってどんなことできるようになったか、直接子どもとやりとりさせてもらいますね』っていろいろな形で同意を得る。『～させてもらいますね』みたいな感じでやりとりするようにはマナーとして大事かなと思います」
1つでも“お土産”を持って帰ってもらう	「何か1個はお土産を持って帰ってもらおうかなっていろいろの思っているので、きょうのお土産をどうしようかなど考える」

問診のコツ	
長くなりすぎない（ただし必要時には時間をかける）	「問診、基本的に10分以内、ちょっとその辺はセーブしなからやっています」
最初に健診の意義を伝える	「健診が何をやる場所かというところを伝える」
“テンポ感”も大事	「子どもがとにかく飽きないようにテンポよく」
複数の視点から多角的に親子をみる工夫	「問診と相談は必ず別の保健師が入るようになっているので2つの目で見える。問診で気になった部分があったら、シートに書き込むなどして相談の保健師に伝える」
健診時の緊張をほぐすコツ（“かたい”“緊張している”対象者に対応する際のコツ）	
何かを一緒にして場を共有し、その空間を和ませる	「1歳をカ月だったらベビーチェアに乗って頂くので、そこでね、やっぱりぎこちなくはお母さんだったら一緒にやりますよ」ってやらしてもらったりとか、やっぱりそういう場を共有していったりとか、『お母さん、大丈夫？』とか、『荷物、ここに置いてください』とか、何かそついう、ちょっとお母さんを案内するようなどころで和まるとオケケーですし」 「4か月だったらマザーズバッグ持ってるんですよ。片側にさげて、赤ちゃんだっこして、でも、結構な荷物、持ったりするので、そのかばんをさすとね、…お母さんは赤ちゃんをどうにかしないといけないって、もそもそされるので、『ここに置いてね』とか、『ちょっと預かるね』、だっこのもとかしてたら『ちよっと外すね』とか、そんな形で、わりとお母さんは4か月の時は自分自身の身のこなしができていない時期なので、まずそこで何かできると思っています」
遠回しからスタート	「難しいなと思うたら、もうほんどうにその話題にはちょっと触れずに、遠回しからスタートっていうところもある。見きわめるのはやっぱり、初対面のときのやっぱりお顔のかたとさとか、お母さんの態度とか」
引くことも大事	「働きかけをしていてもやっぱりかたいてことになると、かなりお母さんの中でのしんどい状況があるんだなと思うたらそういうときはちょっと引いてですね」
健診時に助言する際のコツ	
認めて、共感して、できそうなことから	「できてるところを認めて、大変なところに共感しつつ、ここ、もう一踏ん張りみたいなところは、『じゃ、ここだけやろっか』みたいな感じで伝える」
他にできそうな方法を一緒に考える	「大体のお母さんはいらないっていうこともわかっているから、『じゃ、別の方法、何かある？』みたいな感じで…」
頑張っていることをみつけて認める、保護者が意図してやっていることを言葉にして伝える	「お母さんの健全性とか、お母さんの今ままで経てきたところの、頑張っておられるところとか、いいところ絶対あると思うんですね。だから、やっぱりそこをあらゆるデータから探しているというのが、保健師の面接の前にやっておくっていうのは大切」 「お母さんの上手なかわり、子どものタイプに合わせた上手なかわりっていうのを、そこ、すごいよねって…」

Ⅲ. 研修プログラム案の作成と試行

1. 背景および目的

乳幼児健診の標準化に向けては、常勤のみならず、非常勤従事者のニーズもふまえることが必要と考えられる。そこで、現場の協力を仰いで必要とされている研修についての意見を収集するとともに、前述の調査結果もふまえて、非常勤従事者も含めた研修プログラム(基本編)の案作成と試行を目的とした。

2. 研修プログラム案への調査結果の活用

調査1の結果にもあったが、協力を仰いだ現場の意見からも「健やか親子21(第2次)」についての学習機会や乳幼児健診の位置づけを考える機会が少ない現状があり、その内容も含めて、乳幼児健診の基本と意義について改めて振り返ることとした。また、調査1の結果において非常勤保健師が困難に感じている割合が高かった項目の中でも今回の基本編のプログラムとしては、「問診での潜在的な健康課題やニーズの把握」「対象者との信頼関係づくり」「拒否的傾向にある対象者への対応」に焦点を当てることとした。

調査2の熟練保健師のインタビュー調査の結果から「保健指導のコツ」として様々な熟練保健師が駆使している技術を紹介するとともに、ロールプレイ演習の際に活用した。

3. 研修プログラム試行への協力自治体について

今回の試行に協力頂いた自治体は、大阪府高槻市である。高槻市は京都と大阪の中間に位置する人口約35万人の中核市で、高

齢化率は27.6%(平成27年12月31日)、年間出生数2,663人(平成28年)、出生率は人口千対7.6(平成28年)である。

複雑多様化する対象者の背景や健康課題に対応し、対象者が「来てよかった」と思える健診を目指して、「寄り添う支援」をキーワードとした研修を平成29年度に実施した。本研修は高槻市子ども未来部子ども保健課と当事業における保健指導編担当者とのタイアップにより「健診従事者スキルアップ研修」として実施した。(**「実践ガイド」**にも自治体の許可を得て概要を記載)

4. 研修の対象

新任期や非常勤保健師等を主な対象と想定してプログラムを作成した。ただし試行の際には、新任期や非常勤保健師に限定せずに参加者を募った。

5. 研修の構成とねらい

研修は2回シリーズとした。いずれも多くの職員が参加しやすいよう2回ずつ開催した。また所要時間は各回2時間とした。各回の研修のねらいは次の通りである。

【1回目】

- ①「健やか親子21(第2次)」からみた健診の位置づけを確認し、前向きに健診に従事できるような動機づけができる
- ②乳幼児健診における保健指導の基本と意義を確認できる
- ③寄り添う支援の重要性を確認できる

【2回目】

- ①健康課題の明確化(潜在的、顕在的含む)に関するスキルアップを目指す
- ②信頼関係構築を大切にし、寄り添う支援を目指した保健指導について体験的に学

び、考察できる。

6. 研修内容の概要

1 回目は「講義編」として座学形式で行った。内容は次の通りである。

- ①現代の親子が抱える課題
- ②いま、改めて…乳幼児健診の役割を再確認
- ③「健やか親子 21（第 2 次）」からみた乳幼児健診の重要性
- ④子育て支援・虐待予防の観点からの乳幼児健診の重要性 ～事例紹介～
- ⑤「健やか親子 21（第 2 次）」の重点課題における乳幼児健診の役割
- ⑥乳幼児健診における保健指導の基本

2 回目は「演習編」とし、主にロールプレイ演習を行った。内容は次の通りである。

- ①前回の復習「乳幼児健診における保健指導の基本」
- ②スキルアップ演習～寄り添う支援につながるスキルを磨く～
- ③振り返りと発表（共有）
- ④講評・ポイント解説・まとめ

7. 2 回目の演習について

場面設定は健診の最後の個別相談の場面とし、4 か月児健診と 1 歳 6 か月児健診の 2 種類の架空事例を作成して実施した。ロールプレイでは 3～4 人 1 組となり、2 パターンのロールプレイを実施した。1 パターンは、意図的に「寄り添っていない保健師」の設定でまずは実施し、その振り返りを行った上で、次に「寄り添った保健師」のパターンで実施した。「母親役」も体験することとした。問診票や場面の状況は可能な限り、

研修開催自治体の状況に合わせた。

日常的には寄り添った支援をしている保健師にとって、「寄り添っていない保健師」の設定は特に難しいと考えられたため、調査 2 から得られた熟練保健師が行っている保健指導の「逆」の保健指導を演技例として提示した。

最後に、今回のロールプレイを振り返り、「寄り添った保健師」をした際に活用した技を抽出するグループワークを実施した。

2 回目の研修の流れは次のとおりである。

時間	内容
5 分	開会挨拶、本研修の趣旨説明
5 分	講師自己紹介
15 分	前回の復習（保健指導の基本）
10 分	演習方法の説明
5 分	事例の確認
10 分	演習 1：A パターン（4 か月児健診） 「寄り添っていない保健師」編
15 分	各グループでの振り返りと B パターン実施の準備
10 分	演習 2：B パターン（1 歳 6 か月児健診） 「寄り添っている保健師」編
15 分	振り返りと活用した技の抽出（グループワーク）
15 分	発表（学習成果の共有）
15 分	講評・ポイント解説・まとめ

8. 考察

参加者の感想として、1 回目の講義編では、「健やか親子 21（第 2 次）」の理念などを改めて振り返ることで、広い視野をもって健診について考えることができた」「健診の基本を見直すことで、1 つ 1 つの場面で丁寧にみていく必要性を改めて確認できた」「生まれたときから支援はスタートしている」「多職種で関わる意義を再確認できた」などの感想が聞かれた。母子保健のめざすところである「健やか親子 21（第 2 次）」については、多忙な日常業務の中でなかなか落ち着いて振り返る機会がないことが多

いが、1 回目の講義編では改めて振り返る機会となり、日々の健診事業での関わりが、最終的には親子の健やかな生活につながることに、その意義などを考察できる機会となったと思われる。また 1 回目は保健師以外の職種も参加可能とした結果、多くの職種の参加が得られた。職種は違っても目指す方向は同じであることから、多職種による目指す方向の確認と共有の一助となったと考えられる。

2 回目の演習編では、「ロールプレイといえども、母親の気持ちが実感できた」「寄り添っていない保健師の設定は、保健師役も母親役もつらく、寄り添った支援の重要性をより体感できた」などの意見が出され、

母親役の気持ちも改めて実感したり、寄り添う支援について考えることができる機会となったと考えられる。さらに、グループワークで今回のロールプレイ演習で用いた保健指導技術について議論することで、普段用いている技術を可視化することができた。それらを共有することで今後の支援能力向上に向けて、各自がもつ保健指導技術の「引き出し」を増やすことにもつながったのではないかと考えられる。

さらに、非常勤従事者も含めて同じ研修を行うことで、全体の対応・水準の質が保たれた標準的な保健指導体制構築にもつながったことが考えられた。

「乳幼児健診に従事する非常勤保健師の実態および研修ニーズに関する調査」

※本調査での非常勤保健師とは、「正職員以外の保健師」を指します。

◆お願い◆

「その他」の場合、その内容をできるだけ具体的にお書きくださいますようお願いいたします。

I. 乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）に従事している勤務先についてお伺います。
複数の市区町村で従事されている場合は、この調査票を受け取った勤務先についてお答え下さい。

【問1】ご勤務されている市区町村がある地方はどちらですか？あてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。（カッコ内は該当する都道府県名です）

- | |
|---------------------------------------|
| 1) 北海道地方（北海道） |
| 2) 東北地方（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島） |
| 3) 南関東地方（埼玉、千葉、東京、神奈川） |
| 4) 北関東・甲信地方（茨城、栃木、群馬、山梨、長野） |
| 5) 北陸地方（新潟、富山、石川、福井） |
| 6) 東海地方（岐阜、静岡、愛知、三重） |
| 7) 近畿地方（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山） |
| 8) 中国地方（鳥取、島根、岡山、広島、山口） |
| 9) 四国地方（徳島、香川、愛媛、高知） |
| 10) 九州・沖縄地方（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄） |

【問2】勤務されている市区町村の人口はおおよそどのくらいですか？ 約 人
（区の場合は、区の人口。以下、同様）

【問3】勤務されている自治体の種類はどれですか？あてはまる番号 1 つに ○ をつけて下さい。

- | | | | |
|-----------|--------|---------------------|--------------------------------|
| 1) 指定都市 | 2) 中核市 | 3) その他の政令で定める保健所設置市 | 4) 特別区 |
| 5) 上記以外の市 | 6) 町 | 7) 村 | 8) その他（ <input type="text"/> ） |

【問4】勤務されている市区町村の平成28年度の年間出生数をお教え下さい。 人

【問5】勤務されている市区町村の現在の高齢化率をお教え下さい。 %

【問6】勤務されている市区町村の現時点での常勤保健師数を教えて下さい。 人
（産休・育休含む）

II. あなたご自身についてお伺いたします。

【問7】あなたの年齢はおいくつですか？ 歳

【問8】性別（どちらかに○） 1) 男性 2) 女性

[次ページにつづく](#)

【問 9】 保有している看護職の免許はどれですか？あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- 1) 看護師 2) 保健師 3) 助産師

【問 10】 保健師免許を取得した教育機関をお教えてください。あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

- 1) 大学院 2) 大学 3) 短大専攻科 4) 専門学校 5) その他 ()

【問 11】 看護職（看護師・保健師・助産師・准看護師）としての経験年数はどのくらいですか？
正職員として 合計 約 年 か月 非常勤として 合計 約 年 か月
(いずれも保健師歴を含む)

【問 12】 保健師としての経験年数はどのくらいですか？ 約 年 か月

Ⅲ. 勤務状況についてお伺いいたします。

【問 13】 あなたは、現在勤務されている市区町村では、どのくらいの頻度で勤務されていますか？
平均 月に 日 × 時間

【問 14】 あなたは、現在勤務されている市区町村において、地区担当をもっておられますか？
あてはまる番号 1 つに○をつけて下さい。

- 1) はい 2) いいえ 3) その他（具体的に：)

【問 15】 あなたは、現在勤務されている市区町村において、母子保健事業では乳幼児健診以外にどのようなお仕事を従事されていますか？あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- 1) 育児相談・育児教室 2) 妊婦教室・両親学級（マタニティクラス等）
3) 離乳食に関する教室 4) 母乳に関する相談や教室
5) 二次健診（要経過観察健診） 6) 電話相談
7) 家庭訪問 → 該当するものすべてに○をつけてください。
(新生児訪問、こんにちは赤ちゃん訪問、健診未受診訪問、その他)
8) その他 () 9) 乳幼児健診以外には従事していない

【問 16】 あなたは、現在勤務されている市区町村において、母子保健事業以外にどのような分野のお仕事を従事されていますか？あてはまるものすべてに○をつけて下さい。

- 1) 成人保健分野 2) 高齢者保健・福祉分野（介護予防含む）
3) 難病分野 4) 精神保健分野 5) 障害者福祉分野（精神以外）
6) その他（具体的に：)
7) 母子保健事業以外には従事していない

次ページにつづく